

1 単元名 深めようなごみの輪

2 目 標

高齢者との交流を通して、共に生きることの大切さに気付き、だれもが笑顔で幸せに暮らすことができることを願い、自分にできることを進んで行おうとすることができる。
 高齢者福祉に携わっている人の話を聞き、自分なりの課題を持ち、調べる方法や交流の方法、まとめる方法など見通しを持って学習計画を立てることができる。
 自分の体験してきたことや、収集した情報、またそれに伴う自分の考えや思いを分かりやすく表現して互いの考えを深め合うことができる。
 高齢者との交流活動を通して、人間の老いについて考えるとともに、高齢者の温かさや偉大さに気付くことができる。

3 単元の構想図

総合的な学習の時間(12) 子どもの学びの姿(評価)	児童の意識の流れ	教科・領域の学習
<p>1 自分にできることを考えよう。(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者福祉に携わっている人の話を聞き、自分たちにできることを話し合う。(社会福祉協議会、民生委員、ボランティアグループ) ・花がかわってしまった後の交流を考える。 ・1学期に取り組んだ「一人二鉢運動」を説明し、今後の活動について、アドバイスをもらおう。 自分にできることを見付けられたか。 <p>2 自分の課題解決に向けて、これからの計画を立てる。(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なごみ掲示板をつくり、交流の情報をクラスみんなに知らせる。 ・「なごみ新聞」を作り、みんなの活動を共有する。 ・風車サロンに企画の段階から参加し、多くの高齢者に来ていただけるように計画を立てる組織をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉協議会の人や、住民福祉課の人や民生委員さんに聞いてみよう。 ・高齢者の方は、いろいろな悩みを抱えているんだな。 ・水やりに行っていた花がかわってしまったから、パートナーさんのところへ行けてないな。 ・これからどんな活動ができるかな。 ・話しに行くことだけでも喜ばれるんだ。何とか続けたいな。 ・パートナーさんだけじゃなくもっと広げたいな。 ・一人暮らしの高齢者のために「風車サロン」という事業があるんだな。何か手伝えないかな。 ・「あじさいの会」のお手伝いはできないかな。 <ul style="list-style-type: none"> ・学校での様子をもっと知らせたいな。 ・高齢者の方の小学生のころの話も聞きたいな。 ・戦時中の話も聞いてみたいな。 ・行事に参加するときは自分だけでなく、みんなにも知らせたいな。 ・みんなは、どんな活動をしているんだろう。知りたいな。 ・なるほど、ぼくもやってみよう。 ・風車サロンに参加させてもらおう。 	<p>国語 「わらくつの中の神様」 高齢者を理解する視点をもつ。</p> <p>道徳 「忘れないよおばあちゃん」 家族愛 4 - (5)</p> <p>学活 (構成的グループエンカウンター) 「目指せ地域応援団」 高齢者問題について考えることにより、互いに助け合いながら生きていくことの大切さに気付く。 「80歳の自分に出会おう」 高齢者の日常生活の疑似体験を通して、自分自身を見つめ直し高齢者についての理解を深める。</p> <p>学習発表会 高齢者を招待し、交流を深める。</p>

<p>4つの部に分けて学習計画を立てていく。 (企画部, 芸能部, ふれあいゲーム部, 懇談部) 見通しをもって学習計画が立てられたか。</p> <p>3 風車サロンについて調べ, 計画を立てよう。(5)</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の計画に沿って, 関係機関に連絡を取ったり, 実際に出向いたりする。 あらかじめ, 担当を決めておき, 第1案を作っておく。 各部の第1案を個人で調べた情報と照らし合わせて, 助言する。 友達やゲストティーチャーの意見を参考に, より高齢者の方の楽しめる計画になるように見直す。(本時) 当日に向け準備をする。 高齢者に配慮するための情報を集め計画を立てることができたか。 <p>4 風車サロンを開催し, より多くの高齢者と交流しよう。(3) 高齢者の立場に立って, より多くの高齢者とかわることができたか。</p> <p>5 活動を振り返り, 今後の自分の生活への生かし方や, 自分にできることなどを話し合う。(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 今までの交流のまとめを紹介し合うことにより, 交流の意義を確認する。 これからも交流していこうという気持ちをもつことができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> より多くの方に集ってもらえるようなサロンにしよう。 どうやったら, 多くの方に来ていただけかな。 分担して, いろんな人から情報を集めよう。(有漢ディサービスセンター看護師, 民生委員, ボランティア団体, 自分のパートナー等) 招待状も自分たちで作ろうよ。 高齢者に喜んでもらえるサロンにしたいな。 住民福祉課の方が言われたように相互に活躍でき, しっかりふれ合える会にしていこう。 出し物やゲームだけでなく, お話しをするのもいいよね。 アドバイザーから なことをするといよいよと, 言われたよ。 <ul style="list-style-type: none"> 出し物をとっても喜んでもらえたよ。 一緒にゲームをしたら楽しかったよ。 学校や家族のことを話したよ。 高齢者の若かったころの話を教えてもらったよ。 <ul style="list-style-type: none"> 次のサロンも交流したいな。 自分たちにできることは, たくさんあるんだな。 もっと, 多くの方と交流したいな。 ぼくたちの参加できる行事や事業に積極的に行ってみよう。 今度は, 学校でお世話になった高齢者の方を迎えて感謝の会を開こう。 	<p>道徳 「百一歳の富士」 敬虔 3 - (3)</p> <p>フィールドワーク (パートナーや各地区の民生委員さんから情報を集める。)</p> <p>「なごみ新聞」朝の会等 (活動の様子を継続して知らせる。)</p>
--	--	--

4 指導上の立場

題材について

本単元は, 急速に進む高齢化社会の中で, 児童が, 社会の一員として高齢者とどのようなかかわり方をすればいいかを考え, これからの生活において自分にできることを進んで行おうとする態度の育成をねらっている。

高齢者にかかわる福祉の問題は, 我が国の重要な問題の一つである。このことに直面したとき, 高齢者の心と体を理解し「人は互いに支え合い, ふれあいながら共に生きているんだ」という意識と実践力を育てていくことが大切だと考える。

本単元では, 高齢者福祉に携わっている人の話を聞いたり, アドバイスを受けたりする活動を出発点にし, 押しつけの福祉ではなく, 高齢者に寄り添った求められる福祉活動を展開していきたい。そのためにも, 継続的に高齢者のお宅に自ら出向き, 話を聞く活動を大切に, 高齢者の心の変化を感じられるようなコミュニケーション能力を身に

付けさせたい。

また、本単元では、市の住民福祉課の独居高齢者への取組である「風車サロン」を請け負い自分たちで高齢者のニーズにあった会を計画・運営することを中心の活動におく。そこで、高齢者のニーズとはどのようなものかを関係機関や今まで交流してきたパートナーさんなどから情報を集め、高齢者と共に楽しめるサロンになるよう、工夫していきたい。そして、自分たちの努力で多くの高齢者に喜んでもらえたという成功体験をあげ合わせたい。

こうした活動を通して、高齢者とより深く、広く交流することで高齢者の温かさや偉大さに気づき、社会における自分や高齢者に有用感をもてることができると考える。

児童の実態について

本学級の児童は、男子7名、女子7名計14名である。そして、総合的な学習の時間は、障害児学級から1名女子が交流学級で共に学習する。

5年生は、昨年度特別養護老人ホーム「有漢荘」を訪問し、高齢者に寄り添った交流活動を体験している。6年生は、地域の達人を訪ね、生き甲斐や地域の後継者である自分たちへの思いにふれてきた。それらを受けて今年度「なごみプロジェクト」の活動では、自分たちにできる福祉活動として、身近に住む高齢者(パートナー)を自分で探し、交流していく活動を展開してきた。共に花を育てる「一人二鉢運動」では、花に水やりをするということを通して通うきっかけができ、何度も通ううちに趣味の話や、クラスの紹介、パートナーの子ども時代の話など、うち解けて話ができるようになってきている。児童がやりがいを感じて取り組んだ成果もあって、高齢者からも趣味の折り紙を教えていただいたり、教室で飾る花や感謝の手紙をいただいたりしている。

この活動を通して、高齢者は、児童とのふれあいを楽しみにしておられることが分かった。児童も、ふれあうことで元気をもらえると、大変やりがいを感じる事ができた。

本時の指導について

本時は、高齢者との交流について情報収集したことをもとに話し合いを行い、グループで考えた計画を見直す活動である。話し合いに当たっては、住民福祉課の方の要望や高齢者から聞いてきた要望に即しているか、準備や活動を自分たちの力でできるかなど具体的な視点を助言することにより、話し合いが活発に進むようにしたい。

また、高齢者福祉にかかわっておられる民生委員さん等に、ゲストティーチャーとして話し合いに参加していただき、質問に答えていただいたり、アドバイスをいただいたりすることで、より高齢者の好みや身体状況に配慮した交流内容になると考えている。

最後には、各部ごとに見直した計画を発表する場を設け、友達の考えの良さやアドバイスを上手に取り入れる柔軟さに気づき、交流への期待感を高めていきたい。

研究主題との関わり(体験・交流活動を通し、人権感覚高揚をめざした学習の研究)

自分にできる体験活動を自分で選択し、継続して実践することは、人権感覚の高揚を目指す上で、とても大切なことだと考える。そこで、高齢者との交流活動の情報交換を密にすることで、自分の活動の成果と課題を自覚できるようにする。その際、「なごみ新聞」を発行し学級内に留まらず、校内や家庭、地域社会の協力も得て児童の成長を支援できる体制を取っていきたい。

学級活動では、高齢者とのコミュニケーションが上手にとれるためのワークショップを工夫し、よりよいかかわり方ができるように、技能を身に付けさせたい。また、高齢者の日常生活の疑似体験をすることを通して、自分自身を見つめ直し高齢者についての理解を深めていきたい。

道徳では、「家族愛」「敬虔」の価値を関連付け、実践力の向上につなげていきたい。

国語「わらぐつの中の神様」では、主人公の祖父母の物を大切にすることや、自分の仕事に誇りを持ち、心を込めて働く勤労感に気付かせていきたい。

これらのことを通して研究主題に迫っていきたい。

5 本時案

ねらい	お互いの発表を聞き合ったり，ゲストティーチャーのアドバイスを上手に取り入れたりして，高齢者の好みや身体状況に配慮した「風車サロン」の計画を立てることができる。	
学習活動	主な発問と予想される児童の反応	教師の支援
1 本時のめあてを確認する。	今日のめあてを読みましよう。	
「風車サロン」の計画をグレードアップしよう！		
2 互いの部の計画案にアドバイスをする。	<p>他の部の計画書について気付いたことや，意見があったら付箋紙にその内容をはっていきましょう。(5分×3部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の部の役に立てたらいいな。 ・高齢者のことを考えると，難しくないかな。 ・あまり細かい作業は嫌がられるって聞いたよ。 ・肩たたきみたいなの，ふれあう活動を入れたらどうかなあ。 ・ケアマネージャーさんから高齢者の方が喜ばれるゲームを聞いてきたよ。 ・話をする時は，テーマを決めたり，写真を用意したらいいと思うよ。 ・お手玉やあやとり等高齢者の得意なことを見せてもらえるような場も作ったらどうかなあ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アドバイスが出やすいように前時までに各部の第1案を作成し配布しておく。 ・ゲストティーチャーを紹介し，児童と共に活動していただく。
3 意見交換後自分たちの計画を見直す。	<p>友達のアドバイスをみて，いいなあと思ったことはどんどん取り入れていきましょう。話し合いに行き詰まったらゲストティーチャーに質問し，今までのサロンの様子などを聞いてみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よく調べていたね。ぜひ使わせてもらおう。 ・さんの意見を取り入れよう。 ・困ったな，ぼくたちの考えの方がいいと思うんだけど，ゲストティーチャーに聞いてみよう。 ・いろんな人のアドバイスを取り入れていい計画書になったぞ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲストティーチャーには，高齢者の好み，体力や五感の衰えに配慮しているかや，高齢者の活躍の場があるかという観点で助言していただく。 ・ゲストティーチャーと共に，進んで話し合っているグループを称揚する。
4 本時の活動のまとめをする。	<p>各グループごとに計画したことを紹介し合い，互いの計画の良さを見つけよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前よりふれあう場面が増えるな。 ・高齢者の方の活動の場も増えるな。 ・今までより多くの方を集めたいな。 ・みんなで協力して，喜んでもらえる会にするぞ。 <p>感じたことや考えたことを振り返りカードにまとめよう。 ゲストティーチャーの感想を聞こう。 自分たちの活動の意義を確認するとともに，交流への期待感が高まるようにする。</p> <p>次時の活動内容を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの様子を見ての期待感を話していただくことで，今後のやりがいを感じるができるようにする。

6 研究協議

- ・企画運営に参加することで、児童の主体的な活動になっている。そのため、児童一人ひとりが責任をもって取り組むことができた。
- ・成功体験が次への体験につながっている。
- ・各教科と領域との関連がよい。
道徳で意味づけ、学活で意識付け、各教科の知識が使える。
- ・児童の意識の流れを中心にしている。
- ・手紙のやりとりなど、こちらからする活動としてもらう活動を両方入れることで相互の交流のよさが引き立つ。後者は高齢者の生き甲斐にもつながる。
- ・パートナーさんとの継続的な交流（個人名の顔の見える交流）が、本単元のベースにあり自然と高齢者への思いやりのある行動に表れている。
- ・福祉行政と連携することで活動がダイナミックに展開されている。児童が参加するだけでなく、企画、運営を任されることで責任を感じ一生懸命取材しより高齢者に寄り添ったサロンにしようとして活動していた。
- ・各グループの計画書に気付いたことを付せん紙に書いてはる活動は、みんなに考える機会を与え、みんなからアドバイスをもらうことのできる効果的な活動だった。児童がやり方を提案し、友達の意見にもふれることで、自分を高めていくことができる。
- ・企画者自身の責任感が強く、ビジョンがはっきりしていたから友達からのアドバイスに對しぶれることなく対応できた。また、アドバイスに対して素直に聞く風土があったからこそ今回の授業が成立した。
- ・行政やボランティアグループ等と連携し、どんな活動が実践可能か、日ごろから情報を収集しておくことが大事。

7 成果と課題

成果

* 繰り返しかかわることのよさ

- ・今回の「風車サロン」が多くの高齢者に喜ばれたのも、児童が1学期から取り組んできたパートナーさんとの一人二鉢運動が役立っていたと分析できる。児童は、花の水やりを通して高齢者のお宅を訪問し、学校での出来事や、パートナーさんの好きなこと、特技などを話してきた。そうした継続した活動が、高齢者とのコミュニケーションがスムーズにできた大きな要因になっていると考える。また、特質すべきは、この「風車サロン」があることをパートナーさんとの交流の中で知り、そこをきっかけに今回の企画が次々と進展していったことだ。パートナーさんとの日々の交流が「風車サロン」の大成功に結びついたと言っても過言ではない。

* 人間関係づくり

- ・「風車サロン」を計画する段階で、クラスを4グループに分け担当を割り当てた。そのことでそれぞれに責任を感じ、取材や話し合いの態度にも真剣さが出ていた。また、他の部からのアドバイスに対して拒絶するのではなく、いいものは取り入れ、自分たちに自信がある場合は取り入れなかった理由を説明すると言った行動がとれるようになった。みんなで成功させようと言う気持ちが、友達のよい気付きを素直に聞ける態度へとつながっていったのではないかと考える。

* 地域素材のよさ

- ・福祉行政と連携を取ることで、地域の抱えている課題を感じたり、地域の一員として自分達のできることを見出すことができた。学校と行政とのニーズが一致していたこともあり、取材活動の段階から積極的に授業に入っていただけ、児童が困っていたり、分からないことがあったりすると的確なアドバイスをしてもらった。また、企画運営を全部任せてもらえたのも、児童にとってはとてもやりがいを感じ、責任をもって取り組めた大きな要因であった。その中で、高齢者に配慮するとはどういうことなのか、どんなことが喜ばれるのかなど多くのことを学ぶことができた。

* 直接体験

- ・「風車サロン」に参加されたほとんどの高齢者が、初対面であったが児童との交流を心待ちにされていた気持ちがひしひしと感じられる温かい雰囲気の中で、児童もその温かさを感じ気持ちよく活動することができた。児童が企画した、芸能、ふれあいゲーム、懇談のどのコーナーでも身を乗り出して話を聞いてくださる様子に児童も感激し、模擬体験

以上に自分をさらけ出すことができた。会が終わって「ありがとう。」と何度も声をかけられたり、涙を流しながら別れを惜しまれる高齢者の方を見送ったりする経験は、児童の自尊感情や有用感、達成感を高めることになった。

* ワークショップ・事前学習

- ・ 実際の高齢者の活動されている様子やかかわり方を学ぶために、有漢町のサービスセンターを訪問した。そこでは、まず「高齢者の方を人生の大先輩として敬ったかかわり方をすること」という、かかわり方の一番大事なことを教わった。また、ゲームや職員の方との会話の様子から、身体状況など配慮しないといけないことが、視覚的にとらえられ大変参考になった。
- ・ 懇談をスムーズに進行するために参観日を利用して、保護者に入ってもらって実際にやってみた。結果、声が小さかったり、話が行き詰まったときに沈黙が続いたり、困ったときのサポートができなかったりと多くの課題に気付くことができた。この結果をもとに対応の仕方を練習したことで「風車サロン」では、とても和やかな雰囲気の中で懇談することができた。

課題

- ・ 今回の「風車サロン」を自分たちで企画し運営する活動を通して、それを成功させる基盤はクラスの支持的風土であることがよく分かった。アドバイスを聞き入れたり、友達のよさに気付いたり、みんなで協力するためには互いを認め合い支える集団でなければならない。言い方を変えれば、高齢者に優しくできても友達に優しくできないのでは人権感覚が高まったとは言いがたい。そうした、視点で振り返るとまだまだクラスの人間関係には課題がある。しかし、今まで一緒に遊んでいなかった友達と遊んだり、友達が困っているときにすぐ声がかけられたりと少しずつではあるが効果も現れている。